

企画展「明治時代の特産品」

—海を渡った黒金—

2022.6.4(土) ~ 12.27(日)

浜田市金城歴史民俗資料館

開館日 土・日曜日 開館時間 9:00~17:00

※ 土・日曜日以外の場合は、事前予約をお願いします。

☎ 090-4697-2818

明治30年の特産品として、10品目(銑鉄、半紙、繭、木炭、板、四八枕木、摺附木、菌、生柿及干柿、山芋)の生産高と収入額の記録がある。今では、この10品目は扱っていない。126年前に地域全体の産業として地域経済を潤していたことに改めて再考させられる。

フィラデルフィア万国博覧会は、1876(明治9)年5月10日から11月10日まで独立百周年を記念して開かれ、米国で初めての大規模な万国博覧会であった。この博覧会へ石見の銑鉄(黒金)が出品された。

たたら製鉄は、古来より重要産業として平安末期には黒金として、神祇官領の年貢注文で黒金が納められていた。戦乱の世に在っては黒金が時の為政者によって攻防が繰り返され、江戸時代になって地域全域で、たたら製鉄に関わるようになった。明治になって、洋鉄の普及で斜陽産業となった「たたら鉄(黒金)」が、第2回万国博覧会に出品されたことによって最後に陽の目をみたのである。

今回の企画展は、「海を渡った黒金」として、明治時代、石見地方のたたら製鉄の盛衰と九州へ主力販路を開いた記録を公開展示します。

